



■災害対策本部では、河川水位や気象情報から避難判断決定を行い、各地域の情報を集めて被害防止の対策などを協議



■避難者孤立を仮定し、救助にきた自衛隊車両に乗り込む羽佐間地区住民



■公共施設にあるAEDをいつでも使用できるようにと、心肺停止時の救命講習も実施

# もしも…に備え、命と暮らしを守ろう！

## 多久市 防災避難訓練

6月6日、市は国土交通省武雄河川事務所の共催で関係機関との協力のもとに、昨年7月に起きた集中豪雨による牛津川出水避難勧告発令の実例を踏まえ、その地域住民を対象にした多久市で初めての本格的な『防災避難訓練』を行いました。

羽佐間や古賀山などの住民256人と自衛隊や消防団など関係者約200人が訓練に参加。各地域では、自主防災組織や消防団が援助した避難行動、地域婦人連絡協議会の協力を得た炊き出し訓練などを行い、行政関係者は、避難判断や情報収集など災害対策本部設置・運営、自衛隊による孤立者救助、公民館や学校での避難所運営などを訓練しました。

特に今回は、佐賀平野大規模浸水危機管理計画の一環として、高速道路パーキングエリア緊急開口部通行訓練、インターネットを活用した遠隔防災会議なども行い、それぞれの役割を確認。今回の訓練で、避難所運営のあり方や災害対策本部と現場の連絡体制などの確認ができ、緊急事態に備えます。

参加した住民からは、「高齢者や体が不自由な人などの日常を知ることと、避難訓練や指導の必要性を感じた」や、「初めての避難勧告に昨年は戸惑い、避難する事態は起きてほしくないが、大変参考になった」、「時期を見て今後も行ってほしい」などの意見が出されていました。



■災害救援用炊飯袋での炊飯も体験

## 市長コラム

### 温 | 故 | 創 | 新

Message for citizen

#### 「はやぶさ」君へ宇宙からの帰還

W杯サッカーが南アフリカで開催中だ。日本チームは予選をデンマークに3対1で勝ち抜き、決勝トーナメント進出を決めた。「優勝したい」と公言した本田圭佑選手が若手が活躍している。

その本田選手の特集番組を見た。あえてチャレンジして進む姿勢が光る。世界の舞台ではアピールしてこそ出場でき、ゴールをめざしてこそサッカーと彼は言い切る。勝つために必要なことを積み上げる。その気迫が新天地を生む。

新天地といえば、宇宙探査機「はやぶさ」の帰還も人類初の快挙だ。宇宙好きにはたまらない。小惑星イトカワの砂を採取し持ち帰るミッションのため、7年をかけて60万キロ超の旅をした。サンプルカプセルを分離して大気圏に再突入し、輝く星のように燃え尽きた。世界が注目した。

でもそれは苦難の連続だった。砂の採取トラブル、エンジン停止、1年程の音信不通もあった。そのような場合、従来なら宇宙のもくずと消えるのが常だが、支援チームは諦めずに「はやぶさ」の微弱電波を探して帰還させた。「はやぶさ君」と人々は呼ぶ。でも地球に帰還すれば燃え尽きる運命であると知ったある少女は、大粒の涙をぼろぼろ落とし「はやぶさ君へ」と手紙で呼びかけた。その便りにプロジェクトチームも大感動した。

ひたむきな努力が新天地を開く。政治にも衆知を集め未来を拓くひたむきさが必要だ。「法をつくる者、法を犯すべからず」精神で真の改革をと国民は願っている。政治資金問題と普天間問題で総理が変わり、突入日程となった参議院議員選挙は11日。奇しくもW杯決勝の日だ。忘れずに参政権を行使して下さい。未来のためにも。(俊彦)